

鳴海・有松・桶狭間

鳴海は東海道四十番目の宿場として発展、周辺には有松の町並み、桶狭間の戦いの史跡などがあり、いにしへの文化・歴史の香りが漂っています。



①有松の街並み

東海道の池鯉鮒宿と鳴海宿の間に慶長13年(1608)に尾張藩の奨励により、有松村として開かれました。有松道の両側に連なる町屋は、名古屋市の街並み保存地区に指定されています。(写真は竹田邸)



②有松・鳴海校会館

【休館日】水曜日
【利用料金】大人 300円
小・中・高生 100円
【利用時間】9:30-17:00



③有松・鳴海絞り

有松・鳴海絞りは名古屋城築城の際に九州豊後の人々によって伝えられた技法をもとに創意工夫を重ねて創り出されたものといわれ、東海道を往来する旅人の土産品として珍重されました。有松・鳴海校会館では絞りの実演と即売、歴史資料が展示されています。



④有松絞りまつり

毎年6月の第1土・日曜日に東海道一帯で開催されています。当日は絞り製品の販売や絞りの体験コーナーなどのイベントや3台のからくり人形を載せた山車が展示されます。10月第1日曜日に行われる有松天満社秋季大祭にも山車が登場します。



⑤桶狭間古戦場公園

名鉄有松駅から南の丘陵地に広がる一帯が1560年の桶狭間の合戦地といわれます。公園内には戦いから450年にあたる2010年に織田信長と今川義元の等身大の銅像が設置され、清洲城から桶狭間に至る合戦の様子を知ることができます。公園の周辺にはヒメツバやおけはざま山、長福寺などゆかりの史跡が点在しています。



⑥長福寺

天文年間創建の浄土宗の寺院で、今川義元・家臣・松井宗信の木造が安置されています。



⑦服部邸(県指定文化財)

有松における町屋建築は、他の地方のものとは異なり、絞り生産・店頭販売のための特色を持っています。服部邸は唐部部、絞倉、藍倉などの旧態を維持しており、絞問屋の面影をよく残しています。



桶狭間

桶狭間神社



⑧鳴海宿

鳴海宿は天保14年(1843)頃には本陣1軒、脇本陣2軒、旅籠屋68軒を持つ宿駅として栄えました。伊勢湾に近く、交通の要地であり、松尾芭蕉門下の俳人が多かったため芭蕉ゆかりの史跡や寺が多く、戦国時代には桶狭間の戦いに織田信長が進軍した地でもあります。



⑨鳴海宿高札場

江戸時代1711年に宿場のほぼ中央の高札場が設置され、御札が掲示されました。現在、高札場が鳴海城跡南に復元されています。



⑩瑞泉寺

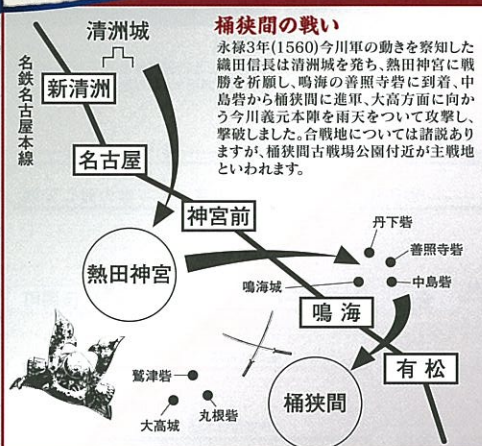
応永3年(1396)創建。総門は宇治の万福寺総門を模した黄檗様式になっています。



⑪誓願寺

天正元年(1573)の創建。鳴海駅に近く、境内に芭蕉ゆかりの芭蕉堂と供養塔があります。

桶狭間の戦い 信長進軍ルート



⑫善照寺砦跡

織田信長は今川軍に奪われた鳴海城を包囲するために善照寺砦、中島砦、丹下砦を築きました。桶狭間の戦いではこの砦が前線基地となりました。

